

院長あいさつー医療現場の光と希望を支える

大津市民病院長 片岡慶正

大津市民病院 77 年の歴史の中で、本年は市民病院経営計画 3 年目の重要な年度です。今年もこの 4 月には多くの若手医療スタッフをお迎えしました。全国数ある臨床研修指定病院の中で本院から 9 名が新たな医師としての第一歩を踏み出しました。新規採用では看護師 31 名、医療技術スタッフ 13 名が希望に満ちて着任しました。患者様の笑顔は“医療現場の光”ですが、研修医をはじめ若手医療スタッフの笑顔は“医療現場の希望”です。研修医 19 名、専攻医 23 名を含めて常勤医師 129 名体制で、今年も職員一丸となって地域に最適な医療を提供させていただきます。

『市民とともにある健康・医療拠点』を目指す病院の姿として策定しました病院経営計画も 3 年目となります。高度先進医療機器の導入はじめインフラ整備も着実に進み、経営計画に掲げた“がんに一層対応できる病院”としての陣容も整ってきました。1 月に導入した最新鋭の電子カルテ・システムと 3 次元バイプレーン・フラットパネル血管造影装置も堅調に稼働し、この 6 月には高度医療の最たる内視鏡的手術支援ロボット『ダビンチ』が稼働します。放射線治療室の工事も順調に推移しております。すべてのステージのすべてのがん診療にシームレスで集学的な診断～治療体制が一気に整います。同時に、第 3 者評価（日本医療機能評価機構、卒後臨床研修評価機構、ISO9001 国際標準化機構）の認定・認証に加えて QI（Quality Indicator）プロジェクト参画により、医療の質・安全への取り組みと職員の意識付けは成長の一途にあります。“エンドポイントない終わりなき戦い”と位置付けて、医療の質・安全の確保と常なるバージョンアップに努めています。ハード面、ソフト面の双方から最先端の安心・安全な医療を提供できる体制が日々進化する様をお知らせ出来ることは、地域の皆様のご支援のおかげであり、あらためて感謝申し上げます。

さて、今回の診療報酬の改定率は+0.1%といわれていますが、4 月からの消費増税に伴うコスト増加分の手当てを除けば実質-1.26%のマイナス改定で、病院経営にとっては大変厳しく、その内容も 2025 年問題を克服するための国を挙げた医療制度改革の急加速度的変革といった様相です。医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実を旗頭に医療提供体制の再構築、地域包括ケアシステム構築を含めて医療から介護までシームレスな構造的および機能的医療改革ともいえるもので、まさに国策としての生き残りをかけた戦略的ロードマップといえるものです。経営計画に準じて変革中の本院にとり、今回の診療報酬改定は大変厳しい外部環境因子となりますが、超えるべきハードルが設定された点において逆説的であるが本院の将来ビジョンへの方向性が明確化されたと解釈したいものです。“成功の反対は失敗ではなく「やらないこと」である”、“リスク回避を考えることこそが最大のリスクである”、一今や公立病院こそ、前向き思考のもとに民間的視点に学び、その手法を先取りしなければなりません。

滋賀県医療情報連携ネットワークのスタートを間近に控え、ICT を活用した大津市医師会の先生方との新たな患者紹介システムが動きます。地域医師会との双方向性の協働に大きく期待するものです。副院長の役割分担を明確化の上、三島副院長には経営担当を、青木副院長には新たなベッド・コントロール・チームのリーダーとして、また従来からの医療の質・安全ならびに患者総合支援の担当を、戸田副院長には救急・重症病棟運営担当をリードしていただきます。今後の地域包括ケアシステムの円滑な方向性を目指して、院内外のご理解とご協力のもとに、組織を挙げて入・退院のベッドコントロールを強化し、急性期病院として、また地域医療支援病院としての責務のもとに、早期からの在宅医療推進を行います。地域の皆様には多方面からのご協力とご支援をより一層お願い申し上げます。

本年度のキーワード、すなわち本院の行動目標と ISO の視点はともに、“連動”と“飛躍”です。本院の経営基盤整備、いわゆる地固めは堅調に推移しております。病院という組織は、個々の思いや個々の行動を含めて、“日々のすべてが連動している生命有機体”といえるものです。すべての職員が、医療者のプロとしての“連動”の意識付けのもとに“飛躍”を目指します。

今後とも地域の皆様のニーズに適確に対応し、本院を訪れる人々が生き生きと輝ける医療環境のさらなる充実に努めてまいります。今後とも大津市民病院ブランド力の向上と将来ビジョンの夢に向かって邁進いたします。皆様とともに歩む市民病院にご期待いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

本年度のキーワードは“連動と飛躍”です。

大津市民病院経営計画 3 年目は、『地に足をつけて』がんばります。

大津市民病院経営計画（平成 24～30 年度）-next stage

【目指す方向性とあるべき病院の姿】

市民とともにある健康・医療拠点

【7 つの基本方針】

- ① 質の高い医療を効率的・安定的に 24 時間 365 日提供する病院
- ② 幅広く市民の健康をサポートする病院
- ③ 患者やその家族の気持ちを感じ取り行動していく病院
- ④ 地域の医療機関が患者のために協働したくなる病院
- ⑤ がんばりたい医療スタッフをひきつける病院
- ⑥ しっかりとした経営感覚を持った病院
- ⑦ 目標を設定し、持続的に進化する病院

平成26年度における院長卓話-“聴す”(ゆるす)

4年前のこの日の院長就任挨拶式で、「聴す」と「念う」について医療人の心構えを職員の皆様にお願ひしました。「聴す(ゆるす)」とは“しっかりとよく聴くこと”です。ただ単に聞くだけとは違います。聴力、聴覚、聴聞、傾聴に使われる漢字の聴(ちょう)です。「聴く」と「聴す」は深みと重みが少し異なるようです。私なりの拡大解釈では、“耳をそばだてて相手の言葉をしっかりと聞く”、“相手の気持ちになって相手の心の声を聴く”、“心を研ぎ澄ませてしっかりと聴く”、まさに医療者に求められる心構え、日頃の態度です。

“心を許(ゆる)してしっかりと聞く”という深い意味が込められた漢字と言葉の力に感動します。原点をみつめて、皆さんとともに大津市民病院の“飛躍”に挑戦させて下さい。